

セッション2

発表者：依田純子さん・大野真貴子さん（特定非営利活動法人 Clinked）

発表テーマ：貧困

発表タイトル：オーガナイズングを使って人身売買防止をコミュニティーに広める

依田純子さんはクリンクトという NGO を立ち上げ、人身売買を防止する為リスクの高いアジアの地域で防止、ライフスキル教育、オーガナイズングやキャンペーン・コーチングを現地の先生の卵たち、ユースリーダー、ボランティア、現地の NGO や社会企業の従業員に展開しています。クリンクトは人身売買防止の為の教育プログラムや人身売買防止キャンペーンをコミュニティーレベルで広げるリーダーシップを育て増やし、その人達がより多くの人々にアウェアネス・キャンペーンをスノーフレイクしエンパワメントをするオーガナイズング・プロジェクトに取り組んでいます。

大野真貴子さんは純子さんのコーチングを受けながら、ベトナムの船上コミュニティの人達の生活改善を自分達で成し遂げるオーガナイズング・プロジェクトに取り組みました。船上コミュニティの方達が貧困に苦しんでいる現状を、若い女性にアクセサリーを作るスキルを身につけてもらい、アーティザン（職人）として働いてもら事業を広げてきましたが、コミュニティ全体の改善に目を向け、コミュニティの人達が自分達の生活環境を変えて行く取組みを（例えばゴミが散乱する自分達の町のゴミ広いをする）促して行くことにチャレンジしました。

ベトナムの取組みでは、同志をオーガナイズングしていくコアメンバーを見つけるのに時間がかかったということでしたが、何故か教えて欲しい、という質問がありました。真貴子さんからは、当初は学生などがコアメンバーになると考えたがコミュニティの人々との関係性作りが難しいことが分かった、そしてなかなかコミュニティの中からリーダーを見つけて行くことも難しかったことが話されました。最終的に自分達が常日頃接している、そしてコミュニティにいるアーティザンがコアメンバーであり彼女達のコミュニティに対する関心を実現していくのが大事であると気づき、次へのきっかけが出来ているとのことでした。しかし、貧困のために収入が必要であり無償の仕事をどこまでやってもらうかジレンマがあるという問題もあります。これについてはグループでも議論が交わされ、純子さんからは、お金を払ってコミュニティの人々に何かしてもらうことを世界的 NGO はやっているところがあるが、結局お金が切れるとその後何もしなくなる、という現象がおきることが話され、必要な経費は払うにしても同志のやりたいことを大事にして「お金のため」ではない活動にしていくことが大事ではという議論をしました。

そしてコミュニティを立ち上がらせるのに気持ちをもつ人から探すのか、気持ちを育てていくのか、という質問がありました。純子さんはストーリー・オブ・セルフを語ることが人身売買に取り組まねば、という気持ちを高めて行くのに有効であったことが共有されました。ミャンマーでのワークショップの終盤にいきなり一人の男性が立ち上がり、「私に話させて欲しい」と言って自分の身近な人が売られてしまった経験を話し出したら、一人、また一人と自分の経験を話し出したそうです。そして別のワークショップでは「人身売買についてどう思いますか？」と問いかけても最初は「そんなこと身近にない」という反応だったのですが、一人が「自分の叔母がある日突然いなくなって、それは彼女が売られてしまったから」と話したら、「同じことが私にの親戚にもおきた」「友達にもおきた」など、話され始めたそうです。問題は身近にあることに気付いたり、周りの人達も共有していることに気付くと気持ちが動いて行動に移って来るといった学びが共有されました。